

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム和の里 雌阿寒	評価実施年月日	平成21年6月10日～6月30日
評価実施構成員氏名	岩野、池田、裏、石村、藤井、井上、宮坂、伊藤、阿部、若木		
記録者氏名	岩野 トミ	記録年月日	平成21年6月25日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「その人らしさを大切に安らぎと楽しさに満ちた雰囲気の中で生活が送れるように」馴染みの中で仲良く助け合い、明るく生き甲斐のある暮らしができるようにサービスの提供に努めています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	その人らしさを大切に安らぎと楽しみに満ちた雰囲気の中で生活できる様、常に意識しながらケアを行っている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	日々の生活の様子を写真に撮り、面会時には家族に渡したり遠方の場合は近況状況の報告を手紙と共に写真を添えて送付しています。又、毎月の通信にホームでの状況を載せ、家族に知らせています。必要に応じて地域の方々にも行事に来ていただいたり、毎月出している通信に載せています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の人々と声を掛け合ったり、見学したり、ホームの様子を見たいなどの要望があれば受け入れに努めている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームで行う夏祭り(隔年)に町内会や、地域の方々に参加していただき、交流を計っている。又、特養老人ホームのお祭りや、町の祭りにも参加して、楽しんでいただいております。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域密着を計り、空室がでた時は、地域の方を優先的に考えています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価を行う事により、日々の業務の見直し、ケア、対応全てにおいて管理者、職員は振り返りの機会を捉えている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>ホーム内での様々な状況を報告し、気になる事、気になっている事も含めて意見を頂き話し合いサービスに活かしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村で開催する研修等に参加してサービスの質の向上に努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>パンフレット等で理解を深めて、必要時に時々の対応を行っている。</p>	<p>今後は研修会等に参加し学ぶ機会を多く持つ様にして内容を深めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>相手の立場を尊重し、自分の身に置き換えたらとスタッフ会議等で確認しあい、目配り、気配りに、言葉遣いに気を配り、注意を払い、防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>細かい事についても説明し、御家族からも、不安や疑問点は話して頂き、理解納得して頂けるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者が安心して生活できる場として、言いたい事、不満など管理者、職員、外来者に自由に言える雰囲気作りに努めています。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>体調の変化も含めて必要時には、電話で報告、面会時にはその都度個々に金銭明細を見て頂き領収書を渡し印をする。職員の異動についても報告し、毎月の通信に載せ新しい人には写真を載せ一言書いてもらいます。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>推進委員会の開催時や御家族の来訪時「何か困った事、どんな事でも」と意見等を聞く場を設けたり、こんな事はどうするかなど、気軽に話して頂き日々の運営に反映しています。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の業務及びスタッフ会議等も含めて、個々に意見があるときは聞く機会を多く設け、意見を発してもらえることは様々な部分で反映できるのですぐ対応しています。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状況の変化に合わせて勤務の調整を行っている。夜間時にも状況によっては、ホームに向いたりしなければならぬ場合もありますので、話し合いを密にしながら調整しています。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動等で利用者さんが不安や混乱を招かぬ様、職員間で情報を密にしなが、より職員間の信頼関係を密にしてダメージを防ぐ様にしております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修も含めて、日々のケアを通して介護技術の指導、職員のケア内容に目配りし気がついた時は、その都度働きかけている。</p>	<p>加齢と共に心身の機能が低下する事により、事故などのない様密に話し合い、入居者さんの出来る事、出来ない事を見極め、常に意識しながらケアにあたっております。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他グループと交換研修を行い受け入れたり、職員が他のグループホームに研修に行ったり、又、介護学生の実習生、個人で訪問したいと言った場合も受け入れ、交流の機会は多い。</p>	<p>「見学に来て下さい」との同業者さんのお誘いで、他のホームを見学させていただき、当ホームでは気付かなかった事等を感じかせていただき、ケアに活かしています。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日々のコミュニケーション、個々の相談、定期的に仲間同士が集まりリフレッシュを行うように働きかけている(美味しい物を食べたり、飲み会、コンサート等)</p>	<p>出来る限り、有休とか休日をとってもらって、リフレッシュを図る様促している。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>日々の仕事への緊張感を軽減できる時間を大切にしながら先輩も後輩も皆同じ屋根の下で和気藹々に常に向上心をもって働くように働きかけている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者の気持ちを受け止め、環境の変わった不安、知らない人との接触全てにおいて安心してもらえるようによく聴き慎重に働きかけ、信頼していただけるように努力しています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホームを選択された家族の気持ちを十分受け止め、よく聴き、気がついた事を遠慮なく話して頂けるような雰囲気作りに努力している。</p>	<p>様々な事情などを含めて、家族の気持ちを聴く機会を多く持ち早く安心して頂ける様、配慮しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族の相続を受けながら要望、思い等の確認しながら、本人、家族が必要としている状況を見極め、様々なサービスの相談に乗っています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に本人、家族と複数回面会をしている。又、見学をしていただいています。今までの生活されていた状況等を詳細に聴き取り、安心して生活できる様配慮しています。(初日等には御家族の方が一緒に泊まっていたいただいています。)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常の介護業務のみならず、精神的な悩みを除き、根本的な悩みを聞いていくよう対応を行っている。見守り感情を共感できる様、本人の意向、意見を尊重するように対応している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者あつての家族、家族あつての利用者の関係を大切に、より深く理解し合える関係が築かれるよう支援しています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	利用者の日々の生活の状態等を面会時などに伝え、又、家族の知り得た情報なども提供して頂き良好な関係が築いていけるよう支援しています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	住み慣れた環境(自宅や阿寒湖や、パークゴルフ場、その他娘さんの学校等)に出掛け、本人に満足していただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個性を尊重し、その人らしさを活かし、心身の状態なども考慮し楽しく過せるよう見守りしています。		入居者同士の助け合いなどが上手く実現できるよう留意していきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特養へ移行されても、定期的に面会に行ったり疎遠にならないよう努力しています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々に、その人らしい生活が出来る様、本人の希望や、願いの把握に努め、その思いを尊重しながら、その時々で検討しています。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御本人、家族、居宅ケアマネ、住んでいた場所の訪問などを通じて、サービス利用に努めています。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々のケースの過し方、心身の状態、出来る事、出来ない事の把握をして情報の共有化に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスを行い、より良い生活が出来るように、本人、家族の意見を反映させながら、全員の意見を出しながら作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヵ月～6ヶ月で計画を作成し、スタッフ会議等で評価、打ち合わせ等を行い日々の生活の中で変化が生じた場合は、その時々で話し合い新たな計画を作成しています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の心身の状態、ケア内容などを細かく個々に記入し情報を共有し計画の見直しに活かしている。毎日、申し送り等で変化、反応等について連絡している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その都度、その時々々に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要性が生じた時は様々な関係機関等と協力しながら支援していきます。		町内会とのより一層の理解を得られる様な勉強会の機会をつくってきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	個々の必要性に応じて支援に努めています。訪問歯科、訪問マッサージ、訪問理美容の利用の援助を行っています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	随時地域包括支援センターとの連携はあります。既入居者に関する情報交換あるいは、入居待機者の情報交換を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診する際は、生活情報の提供など援助する本人、家族及び介護側の意見、情報の提供のため同行するなど行っている。診療内容に、本人、家族が納得できるものになるよう支援しています。御家族、本人の希望する病院へ同行など受診が可能になるよう配慮しています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医在籍病院への受診のための医療情報提供、相談内容などの代弁など援助している。また、医師より必要な医療情報の収集を行っています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	健康管理や医療面での相談、助言を得ている。入居者からの相談を受けてもらい、不安の解消に努めてもらっています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の医療機関と連携を取り、退院後の介護体制について説明するなどして早期の退院あるいは入院中のダメージが少ないように支援しています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の本人あるいは、御家族の意志確認を行っています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	身体的、精神的苦痛、苦悩を出来るだけ緩和し、尊厳に十分配慮しながら、急変時の対応に関しては、連絡体制、医療機関の受入体制などについて話し合っています。チームとしての支援に関しては検討中です。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族、ケアマネージャー等とも情報交換を密にしながら、メリット、デメリットなども含めてダメージ等を防ぐように努めています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを損なわないケアをし、個人情報についても慎重に受け止めミーティング、スタッフ会議等でも再確認合っています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>食事、行動の場面で、必ず選択肢がある状態で介護するようにしている。職員の一方的な押し付けにならないよう心掛けています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>御本人の要望などを重視しながら、その日の日課など決めるようにしています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出時あるいは希望があれば、身だしなみや化粧、お洒落の援助を行っています。本人の望む美容、理容室へ行く支援は行っています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の買い物には入居者が同行するなど参加をいただいています。食材を切ったり、洗ったり、後方付け等を利用者と一緒に行い食事を楽しむようにしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	御本人の嗜好の把握は出来ている。その都度好みのものを聞きながら提供するように行っています。		時々、ホテルや、昼食バイキングに行き、個々の目でメニューを選択され楽しんで食べて来ています。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の状態に合わせて排泄パターン等を記録し、昼はトイレ介助、夜は尿取りパッドを使用しながら誘導して気持ちよい排泄が出来る様に支援しています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の身体的状態を考慮し、その時々で入浴を楽しめるよう支援しています。		寒い時等は温泉に入って入浴を楽しむ機会を支援しています。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の心身の状態、状況に応じて昼寝をしたり、早く寝たり、遅く寝たり気持ちよく寝る事ができるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来る事、出来ない事を見極め、役に立ちたいという気持ちが個々にあるので「やりたいという気持ちを尊重し」出来る事への楽しみ満足感なども含めて支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つ事への理解が困難となってきたので、外出時は個々に所持するよう対応し、その時々状態に応じて支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候の良い日は出来るだけ、ホーム外での散策を日常化させている。季節にも左右されるが、ホーム外の散策だけでなく、買い物、花見物、行事見物、喫茶店、ドライブ、外食など時々に合わせて行っています。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族の協力を得ながら、過去に自分の住んでいた地域や家に行っています。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話使用も制限なく対応しています。家族から来た手紙を一緒に読んだりして、共感しています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪して下さる時は時間帯を含めていつでも気軽にと共にお茶を飲んだり、昼食時には一緒に食事をしたり、その時々に応じています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	「利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努める」と心して受け止め身体拘束はしていません。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の玄関以外、施錠はしないように対応しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜勤は各フロア毎に配置している。日中帯は各スペースに必ず職員が配置されるよう職員同士で声掛け確認を行いながら対応している。昼夜間問わず入居者の確認が出来るような場所での職員配置を行っています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状況に応じて危険と思われるものは、格納するなどの処置を取っている。刃物等でも、安全に使える場合は状況に応じて管理しています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の身体的状況の観察、把握を行い、予想されるリスクに対しカンファレンスなどで話し合い対応を決めている。ヒヤリハット、事故報告書を作成し全体会議において再発防止の話し合いを行い対策を共有化している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時、災害時のマニュアル綴りのファイルを作り職員が常に読み学び、スタッフ会議等で復習をしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に火災避難訓練、通報訓練、消火訓練を行っている。緊急連絡網での対応しています。		町内会防災係への協力を取り付ける様に行きたい
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などに説明を行っているが、起こり得る状況になった場合は家族にその都度説明し抑圧感のない暮らしが出来るよう家族と共に対処策を話し合っていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタルチェック体調の変化や異変、速やかに対応記録伝達などにより情報を共有しその時々で判断して緊急であればホーム長に連絡、必要に応じて医療連絡を取っている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個別に服薬(朝、昼、夕)保管して内容も個別にファイルしている。家族にも聞かれたら見て頂く様にもしながら職員は良く理解して症状の変化等の確認に努めています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便管理表を作成しており、カンファレンス等で服薬管理食材の検討、水分摂取量の確認、又は水分摂取の工夫、運動などで対応している。解決しない場合は医師にも相談しています。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日の口腔ケアの声掛けを行ったり、援助するなりして確実に行うようにしている。また、口腔内の観察を行い、状況に応じた必要な処置を行っている。一人一人の能力に応じた口腔ケアに留意している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量、水分摂取量を個別に対応し、献立表を作成して栄養バランスに留意している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>手洗い、うがい、便座の消毒の予防に努め、インフルエンザ予防接種を利用者、職員全員が実施し、玄関には手指消毒用アルコールを置き面会時等協力をお願いしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食品の賞味期限、在庫チェック調理用具等は毎日消毒させている。布巾などは、朝、昼、夕同じものを使わないようにし衛生管理には注意している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りは花畑やベンチ、プランターを設置するなど家庭的でゆったり休めるような工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>花などの鉢植えを置き、壁には季節にあった飾りつけを行い、テーブル、ソファの配置などを入居者と相談しながら行っている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テーブルの他に家族や他ユニットの入居者と歓談やゲームが出来るようソファなどを配置している。又、電動マッサージ機なども配置しています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居されるとき個々の状態、その人が好まれる物や使い慣れた物により気持ち安らぐので持っていて頂くよう工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>除菌イオン空気清浄機、湿度計、温度計などを設置し、トイレ、各居室に消臭液を個々に置いたり状況に応じて環境作りに努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 恵まれた自然環境を生かし、花畑や家庭菜園を作り、花を愛でて心豊かに手作り野菜を食べて、健康な体にと心身共に自然とふれ合う生活の支援がアピールしたい点です。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 和の里 雄阿寒	評価実施年月日	H21.6.25
評価実施構成員氏名	助川、安達、白井、横井、木村、飛田、山本、早川、宮田、石田		
記録者氏名	助川 了子	記録年月日	H21.6.25

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所独自の理念を作り上げている。地域の中でその人らしく暮らせる様、一人ひとりの話しを傾聴し、支援に繋げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>その人らしさを大切に安らぎと楽しさに満ちた雰囲気の中で生活できる様、常に意識しながらケアを行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ニュースレターやホームページに掲載するなど、さらには来訪された時、目につきやすい場所に玄関や事務所に掛けている。</p>	<p>○ さらに地域密着型を意識し、また理念の浸透を図り、例えば旬の食材を使った料理教室などの催し物を行い、地域の人達や家族が当ホームに気軽に足を運んでいただき、楽しい一時を過ごせる様、思案中です。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域の人々と声をかけあい、庭を見せていただいたり、また立ち寄っていただいた際に要望があればホーム内を見学していただくなどの付き合いに務めている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>入居者一人ひとり町内会会員となり、国道沿いの花壇の花植えをはじめ、新年会など町内会活動や行事などに積極的に参加し、地元の人々と交流を深め、地域の一人として生活する支援をしている。</p>	<p>○ 地域活動費の捻出に協力し、資源ゴミ(空き缶)などの仕分け作業に参加している。景観を大切にする活動に参加し、国道沿いの花壇の花植え、清掃などに取り組んでいる。当ホーム主催の夏祭りに参加を呼びかけ、地域の人達と共に楽しんでいる。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域では認知症対応型グループホームや小規模多機能型事業所を利用したい高齢者又は御家族が年々増加しているので、地域の人達の要望に応えるべく努力している。</p>	<p>○ 事業者は地域密着型サービス事業の拡大を視野に入れている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価を行う事により、日々の業務の見直し、ケア、対応の全てにおいて、管理者、職員は振り返りの機会を捉えている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>ホーム内での様々な状況を報告し、気になる事など意見、助言を頂き、話し合いサービスに活かしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村で開催する研修や勉強会等に参加してサービスの質の向上に努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者、職員は実践者研修又は管理者研修を受講し、学ぶ機会を持ち理解している。又当事業所において話し合いを持ち周知し、それらを活用すべく支援している。</p>	<p>○</p> <p>すでに権利擁護事業を活用している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者、職員は実践者研修又は管理者研修を受講し、学ぶ機会を持ち、又当事業所においてこの関連法について理解を深めているところです。</p>	<p>○</p> <p>この事について思いあたる事はないが、言葉遣いについて職員間で気をつけ合っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書に基づき契約が行われている利用者や家族の不安や疑問点を知り説明を行い、理解・納得を図っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	当事業所に苦情相談窓口を置き、職員を配置している。 外部苦情受付機関を置き利用できる様、契約時の重要事項説明書に載せている。 利用者の意見や不満、苦情の訴えがあった時は、じっくりと聞き、真摯に受け止め改善に努める		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	事故、受診、心身の変化、利用者に必要な購入品など、都度家族と連絡を取っている。 毎月ニュースレターを発行し、利用料請求証と一緒に家族に送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議後など、出席された家族からお話を聞く。又、個々に来訪された家族に日頃より意見要望などを聞かせて頂いて、サービスの向上や運営に反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行っている各ユニット別会議で出される、意見や要望を検討する場を設けている。 又、緊急を要する時には、毎朝の引き継ぎ申し送り時に行っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化に応じて、各ユニット連携して職員の人員確保の調全体制に努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日頃より各ユニットの職員応援体制が作り上げられており、馴染みの関係の幅を広げる事により、異動などによる影響を最小限に抑える様、利用者の心境などに配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>ユニット会議の際に、必要に応じて研修の機会を設ける。 又、外部研修に参加し、資料などを閲覧したり回覧し、共有できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>常に心身の状況を見極め話し合いを持ち、安全な生活を送れる様、ケアにあっている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他のグループホームとの交換研修を行い、サービスの質の向上に努めている。 又、介護学生の実習、個人で訪問したいなどの場合も受け入れ、交流の機会が多い。</p>	<p>○</p> <p>他ホームの職員との交流で新鮮な目で見たと話しを聞くことができ、気付きや振り返りの機会を持てる。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休日や有給休暇の希望を鑑み勤務表を作成し、ストレスの軽減を図っている。 親睦の場を設け、ストレス解消に繋げている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けての呼びかけと支援がなされている。 地域での勉強会や研修会に参加できる様、働きかけと支援がなされている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人がどのような介護を求めているのか観察し、話しを聞く機会を多く持ち、職員間で知り得た事を話し合い、受け入れ、求めに応じ実現に向けて職員の連携で対応している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前の説明の段階から要望など聞き、できる事などを説明する。ケアプラン作成時にも家族の要望が反映できるよう、お話を聞いている。日常に変化があった時などにも連絡し、家族の意向などをお伺いしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	御家族から相談を受けた時、要望や思いを確認しながら、本人、家族が今必要としている状況を把握し、様々なサービス利用について相談に乗っている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	入居前から面会や見学をしていただいている。事前の情報をできるだけ沢山いただけるよう努めている。入居後できれば毎日家族の訪問をお願いします。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	本人と共に過ごす事で人生の先輩として学ぶ事が多々ある。又、苦楽を共にするといった感情が生まれ、助けたり助けられたりといった、相互関係が生まれている。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	本人の日常生活に変化があった時、家族に報告し家族の考えを聞かせていただいたり、対応について相談したりなど家族の協力を得ている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	家族と本人の要望が一致すれば、外出、外泊を促進している。受診は基本的に家族対応となっているが、要望があれば職員対応し、家族に結果報告し、柔軟な支援を心掛ける。又、家族と職員が同伴することもあり、情報の共有を図ることもある。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。</p>	お友達や付き合っていた人達、親戚の人達など来訪していただく事に配慮し歓迎している。家族の定期的面会ができるよう支援している。家族との外出や馴染みの人や場との関係継続に積極的に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	それぞれの意見を大切に、ゲームやカラオケなどを楽しんでいただき、趣味を通じた関わりの場を設けている。又、ドライブや食事会に出掛け、皆で楽しい時間を共有する機会を設定している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特養など他の施設に移行されても、定期的に面会に行くなどして疎遠にならないよう努力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望を聞きのがす事が無い様、スタッフ間の情報を交換し、一人ひとりの意向の把握に努めている。又、御家族との話の中で意向を把握する場合もある。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や居宅ケアマネ、本人から生活歴や生活環境の把握をしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズム、心身状況など、会議や申し送り、日常記録スタッフ間の情報ノート、受診ノートを活用し、把握しています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に会議を開き、担当者がアセスメントを行い、本人、家族の意向を反映させながら全員の意見を出し、モニタリングを行い、介護支援専門員の監理のもと、介護計画を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。見直し以前に本人に変化があった時は、情報をもとに現状に即した計画に変更を行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に沿った記録を行うよう留意している。毎日の申し送りで変化と状況について連絡と引継ぎを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その都度、その時々に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、警察も推進委員会議に参加していただき、意見などを聞かせていただいている。消防の協力で防災訓練、緊急避難訓練を行っている。町内ボランティアの受け入れ。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問歯科、訪問マッサージ、訪問理美容などの利用の援助を行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの連携がなされている。入居待機者の情報交換など行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	御家族、本人の希望する病院に同行支援を行っている。 地元の協力医院によるインフルエンザ予防接種の往診支援。 受診の際、御家族や本人から要望があれば、同行し情報を提供し、診療内容に納得できるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医等、認知症病院の情報提供を御家族に行う。 認知症の専門医への受診の際、同行し、そうだんや本人の症状の代弁などの支援を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している 又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	健康管理や医療面での相談、助言を得ている。 又、入居者からの相談を受けてもらい、不安解消に努める。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の医療機関に退院後の介護体制を説明し、入院によるダメージが最小限に抑えられる様、早期退院できる様、支援している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化したり終末期に向けて、御家族、本人の意思確認を文章又は口頭で行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	身体的、精神的苦悩をできるだけ緩和し、尊厳に十分配慮しながら急変時の対応に関しては、連絡体制、医療機関の受入体制などについて話し合っている。 チームとしての支援に関しては検討中です。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族、ケアマネージャー等と情報交換を密にしなが、メリット、デメリットなども含め、ダメージなどを防ぐように努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>日頃の介護の場面において、個人のプライドやプライバシーを損なう事のない様、声掛けなどの際、十分気配りをしながら対応している。</p> <p>個人情報記録の取り扱いに関しても保存方法などにも配慮している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>介護のどの場面においても必ず本人の意思を確認しながら対応している。</p> <p>本人が納得できる説明を心掛け、意思決定できる支援に努めている</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個人の希望を聞きいれ、それぞれのペースに添う過ごし方ができる様、支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理、美容院など本人の行きつけの店の利用を支援している。</p> <p>毎日の更衣、整容などその人の力に応じて、自立の支援を行っている。希望があれば化粧、身だしなみの援助を行う。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>それぞれの得意な事を発揮したり、やってみたい事に挑戦していただいたり、役割を持つなどして買い物から後片付けまで入居者と職員が楽しみながら行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好の把握はできている。都度好みのものを聞き、個人の状況を観察しながら提供している。	○	利用者の希望を取り入れ、ホテルで食事会や昼食バイキングなどへ行き、本人の目で選んでいただき、雰囲気を楽しみながら食べてきている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを記録し、その時々々の状態に合わせて、昼間のトイレ介助、夜間は尿取りパットを使用しながらトイレ誘導して気持ち良い排泄ができる様、支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の身体状態を考慮し、希望を聞きながらその時々に合わせて入浴を楽しめるように支援している。	○	時には温泉に行き、入浴を楽しむ支援をしている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活習慣を大切に、心身の状況に合わせて昼寝したり、就寝時間に幅をもたせ、気持ち良く寝られるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役に立ちたい、役割を持ちたいという気持ちを尊重し、出来る事、出来ない事を見極め、出来る事への楽しみや達成感を味わっていただき、役割を持ち満足できる生活支援に努めている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力に合わせ、お金を普段から所持されている方もいます。お金を持つ事への理解が困難となっている方については、外出時や買い物時、状況に応じて、使えるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気と体調を見ながら、園近辺の散歩や季節ごとの地域での行事参加、希望に沿った買い物、外食など行っている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節ごとの行事に個別又は他の入居者と共に、遠出することや家族宅へ外泊も本人と話し合いながら実施している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に添いながら、日中、夜間、電話を使用したり、遠方の家族に写真を送るなど行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間は制限しておらず、いつでも訪問できるよう対応している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議の時に取り上げ、時々話し合う場を作っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外、施錠はしないよう対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士で声掛け確認することを徹底し、プライバシーに配慮しながら対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物など、保管場所を決め、怪我、事故のないよう安全配慮している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を細めに観察しながら事故防止し、ヒヤリハット、インシデントを作成し、再発防止を徹底している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを作成し、各自時々目を通し、急変などに対応できるようにしている。消防の救急実習に参加し、訓練している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。地域の方の協力体制についても話し合いされている。	○	町内会防災係への協力を取り付ける様にしていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	介護の状況をその都度伝え、話し合い、理解していただいている。抑圧感のない安全な毎日を過ごせるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日の心身の変化を見逃さず、職員間の情報をも密にし、バイタル、排泄、水分摂取量など記録している。変化があれば、管理者に報告し、早期対応できる状態にしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>受診後の処方記録、医師より伝達事項、個別の処方ファイルも時々確認チェックできるよう設備している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>毎日排便記録でチェックし、体調の変化を見逃さぬよう対応している。毎食のメニューもバランスよく食事できるよう工夫されている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日それぞれの口腔ケアを快適に行えるよう、支援している。状態に応じて担当である地域の医師に協力してもらい、アドバイスをもらっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>センター方式を使用し、食事、水分の記録を個別に行っている。食事メニューもバランスを考え作成され、一人ひとりの摂取の工夫がなされている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>入居者、職員のインフルエンザ予防接種を行い、ノロウイルス対策等も消毒、調理方法を工夫などし、訪問者への対応も徹底している 毎日の手洗い、帰園時のうがい、手洗いも、ポスター、声掛けをし、対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材の管理はもとより調理の服装、掃除、消毒等も衛生管理に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関のスロープ、手すり、椅子等の設置、花や緑の鉢、花瓶などで飾り、広い庭には四季折々の草花で景観良く、入居者や地域の方々も楽しめるよう工夫している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ソファや所々に椅子を置き、気軽にリラックスできるよう設置され、気持ちが落ち着くような色合いに工夫されている。四季折々の草花を入居者と共に採り、花瓶に飾るなど、家庭的な雰囲気作りをしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気軽にソファや椅子、座布団に座れるような空間も工夫されている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家族と相談しながら、快適に過ごせるよう配慮している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎日の温度、湿度により換気に努めている 空気清浄機、加湿機なども設置されている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>フロアー、廊下、トイレ、風呂場、階段などに手すりを設置している。必要に応じて椅子の足置き、ベッド柵を設置している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自室が他室と区別できるよう、ネームプレートや写真を貼るなど目印をつけ、トイレにも矢印付きの貼り紙をつけている。夜間、トイレ内、トイレ前、廊下のセンサーで電気が付くようにしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>前庭にテーブル、ベンチなど置き、日光浴、庭の花木を見て楽しむことや庭、畑でそれぞれ苗、種をまき、成長を楽しむこともしている。</p>	

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 恵まれた自然環境を生かし、花畑や家庭菜園を作り、花を愛でて心豊かに手作り野菜を食べて、健康な体にと心身共に自然とふれ合う生活の支援がアピールしたい点です。